

令和 7 年度実施

中 央 区

地域活性化事業交付金

事 業 ま と め 誌



相模原市 中央区役所

目 次



「地域活性化事業交付金」について	1
----------------------------	---

小山地区

・ 手しごとでつながるコミュニティの場（てとてと）事業 . . .	2
・ 小山地区ハロフェス（あいさつ運動）プロジェクト	4
・ 不登校児童生徒のためのスポーツサポート（スポサポ）事業	6
・ 小山地域の人と人をつなげるプロジェクト	8

清新地区

・ みなはし歌声広場プロジェクト	10
・ 清新防災フェス	12
・ eスポーツでつむぐ世代の絆！～教え教えられ、みんなが主役～	14
・ 子育て世代応援事業プロジェクト	16

横山地区

・ G0, G0 横山！まちづくりプロジェクト	18
・ よこやま元気に登校！安全登校！プロジェクト	20

中央地区

・ こども安全・安心事業	22
------------------------	----

星が丘地区

・ 地域を知り利用し皆友達プロジェクト	24
・ すずかけのき再生プロジェクト	26
・ 緊急時安心サポート事業	28
・ 自治会回覧板のDX化	30

光が丘地区

・ すぎの子地域交流促進活動事業	32
・ みらいく（地域のつながりを未来（次世代）へと繋ぎ、 育てる事業）	34
・ 乱横断防止及び特殊詐欺対策等の意識向上事業	36
・ 中学生による防災マップ作成事業	38

目 次



大野北地区

- ・ 宇宙を感じる地域づくり事業 4 0
- ・ 障がいをもつ人たちと地域を結ぶ「交流音楽発表会」 &
「アートワークショップ」 4 2
- ・ ～楽しくつながろう！～おおのきた防災フェスタ 4 4

田名地区

- ・ 田名地区三菱重工相模原ダイナボアーズ応援事業 4 6

上溝地区

- ・ 上溝さくら公園イルミネーション事業 4 8

「地域活性化事業交付金」について

□地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

□対象事業

- ・地域の防災・防犯に関する事業
- ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- ・地域福祉の増進に関する事業
- ・産業や観光の振興に関する事業
- ・環境の保護・保全に関する事業
- ・青少年の健全育成に関する事業
- ・地域の文化・伝統の振興に関する事業
- ・生涯学習に関する事業
- ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- ・区が推進する重点事業
- ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

□優先的な交付対象事業

- ・自治会への加入促進
- ・地域における公共的な活動の担い手育成
- ・公共的な活動への参加者増加
- ・地域の公共的な活動団体間の連携強化
- ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決

□交付対象とならない事業

- ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。
- ・第三者への事業促進を求める事業
- ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業

□交付金の申請者

原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体。申請にあたり、事前に事業を実施する地区のまちづくりセンターへ相談が必要。

□事業の交付年限

事業の実施期間は当該年度の4月1日から翌年3月末までとし、同一の事業（情報の更新を必要とする事業を除く【例：地域情報マップ等】）に継続して交付する場合は、3年を限度とする。ただし、区長が特に認めた事業は、最大5年を限度とする。※

※ただし書き以降は令和8年度以降に実施する事業に適用するが、令和7年度については、特例として4年目の事業をモデル的に実施した。

□交付金の対象経費（交付率は10分の10以内）

- ・事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
- ・事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、備品購入費、[※]施設使用料、備品借上料等
- ・事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
- ・事業を行う上で必要な委託費等
- ・イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
- ・講演会等の講師に対する報償費
- ・研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。）
- ・その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

※備品（物品等で1件1万円以上の財産）購入費の交付率は、対象経費の3分の2以内。

小山地区「手しごとでつながる コミュニティの場（てとてと）事業」

1年目

てとてと

1 背景と目的

近年、地域の高齢化とコミュニティの希薄化が大きな課題となっている。小山地区においても例外ではなく、介護を受けている方やひとり暮らしをしている人も少なくない。また、地域のイベントや交流も以前より減ってきており、高齢者の外出の頻度も減り、顔見知りも少なく孤独な日々を送る人が増えてきているという現状がある。

その様な中で、高齢者に対して手しごとを通じたコミュニティの場を作ることで、脳を活性化させ認知症予防につなげることや、悩みごとの相談や仲間と一緒に楽しむことで、孤立を防ぎ安心して暮らせる小山地区を目指す。

2 内容

・小山地区内の自治会館等において、主に高齢者を対象として、針仕事や編み物及び伝統工芸等も交えた様々な手しごとを実施する。将来的には地域の子どもたちも交えて、世代を超えたコミュニティの場を目指す。

総事業費：266,645円

うち交付金額：266,000円

3 成果と今後の展望

今年度は久保原自治会のみで実施した。掲示や回覧は、相模原駅前、向陽町、久保原、氷川町自治会で行ったが、遠くて参加できないとのご連絡もあった。参加者からは、「苦手だけど参加したい」、「お友だちを作りたい」、「みんなとなら手芸ができる」などのご意見が多く、地域で集まることやコミュニティの必要性、当初の一番の目的である認知症予防や孤立感の軽減に繋がると感じた。

今後は、活動の幅を広げたいが、そのためには、教えられる人を増やすことが課題である。また、予約なしで気軽に参加できるよう改善する。

また、夏休みなどの長期休業期間には、子どもたちも参加できるように企画し、世代を超えたコミュニティの場作りに、次年度は挑戦する。



てとてと事業

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
7月30日	久保原地区内	4人	スカーフで作るアクセサリー
8月27日		5人	刺し子
9月24日		5人	刺し子
10月29日		5人	モールドール
11月26日		6人	モールドール
12月24日		5人	ぽんぽんサンタのオーナメント
1月28日		5人	つまみ細工のマグネット
2月25日		6人	ちりめんで作るころころお雛様
3月25日		5人	さくらのリース

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 手しごとでつながる
コミュニティの場（てとと）事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	地域の高齢化とコミュニティの希薄化が大きな課題となっている中、高齢者等が参加しやすく、手しごとを通じて認知症予防につながるような取組を実施している。 また、小山地区内の複数の自治会へ周知して事業を実施し、地域の活性化にも貢献している。 第2条第2項の視点を取り入れた事業となっている。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ◎	本事業は、月に1回のペースで高齢者の認知症予防につながる事業を実施している。また、当初は針を中心とした手芸を想定していたが、参加者の希望を踏まえ針や糸を使用しない手芸を実施するなど、参加者目線で、柔軟に事業を実施している。 また、支出については、消耗品を中心とした、本事業を運営していくにあたって必要最低限の支出であり、過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ◎ ○	本事業は、小山地区内の関係者で構成されており、事業の企画、運営においても団体内で完結しており、主体的に実施されたと言える。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	本事業により、新たな認知症予防の取組を実施できたことから、他団体の参考になる事業である。 また、本事業は高齢者のみならず子どもたちが参加できるような世代を超えたコミュニティの場とすることを目標としており、指導者を増やすことについても検討している。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	年間を通して事業を実施、小山地区内の認知症予防や、地域交流の場を提供していることから、所期の目標を達成していると言える。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「健康増進活動の推進」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間で改善が困難と見込まれる場合

小山地区「小山地区ハロフェス（あいさつ運動）プロジェクト」

2年目

小山中ハロフェス盛り上げ隊

1 背景と目的

昨今では近所付き合いや人間関係が希薄化し、地域のおまつりやイベント等も縮小傾向にあり、地域の人々の関わりの方が少なくなっている。これは、安全・安心や防災の分野でも負の要因となっており、人と人とのつながりの大切さをあらためて共通認識する必要がある。

こうした課題を解決するため、小山中学校において実施しているハロフェス（あいさつ運動）を、交付金を活用して作成したバルーンアーチや、小山中学校の公式マスコットキャラクター「おにやまくん」を用いて継続していくことで、学校内の明るさや、生徒の積極性にもつなげる。また、ハロフェスを校内外に広げ、地域の方も巻き込んで実施することにより、世代間交流を促すことや住民同士の絆を深めるなど、地域活動の礎となるソフト面の充実を図ることを目的とする。

2 内容

- ・ハロフェスを実施する際の啓発資材等の作成や継続的なハロフェスの実施。
- ・小山地区ふるさとまつり爽涼会等の場でハロフェスの周知を実施。

総事業費：109,916円

うち交付金額：90,000円

3 成果と今後の展望

4年前から始めたハロフェスを継続し、啓発資材等を活用してハロフェスをバージョンアップさせて実施していくことで、笑顔であいさつをする習慣が生徒に根付き、学校内も年々活気付いている。

さらに、小山地区ふるさとまつり爽涼会に出演したことで、自分たちの存在を知ってもらうことや、自治会や近隣の方々へもハロフェスのアピールができた。

今後はハロフェスの開催頻度をあげ、入学式や卒業式等でも開催するとともに、ipadを活用して音楽を流すなど、校内の雰囲気をも盛り上げることで、より一層活気あるハロフェスを実施していく。

また、近隣のイベント等でのハロフェスの実施を目指していく。



小山地区ふるさとまつり爽涼会でのハロフェス周知

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
随時	小山中学校	約15人	小山中学校生徒との打ち合わせ
4月～3月	小山中学校	計15～30人	ハロフェス（計4回開催）
9月6日	向陽小学校	4人	小山地区ふるさとまつり爽涼会での啓発活動

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 小山地区ハロフェス（あいさつ運動）プロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	近所付き合いや人間関係が希薄化し、地域の人々の関わり合いの場が少なくなっている中、小山中学校内で地域住民を巻き込みハロフェスを開催し、あいさつを習慣付ける取組を行っている。 また、ハロフェスを小山地区内へもPRしていくことで、小山地区内全体が活気付ききっかけを作っており、安全・安心なまちづくりや、災害時の助け合いに繋がるため、第2条第2項の視点を取り入れた事業となっている。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	啓発資材を活用したハロフェスの実施は、小山地区内の住民同士のつながりの醸成を促し、活気付けた。また、小山地区ふるさとまつり爽涼会におけるPRなど、より幅広く活動を周知することができた。 また、支出についても、事業に必要な消耗品・備品を購入しており過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	本事業は構成団体の他、小山中学校の生徒も含めて、企画や事業が実施されている。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	今年度においては啓発資材を活用し、より活気のあるハロフェスを実施することができた。 次年度以降においては、ipadを活用したデジタル技術を駆使することなどにより、さらに活性化させ、小山地区全体に「笑顔であいさつする」ことが広がっていくことを期待する。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	小山中学校でハロフェスを実施できたほか、地区のイベントにおいてハロフェスのPRができたことで地域の活性化の一助になったと考えられる。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

小山地区「不登校児童生徒のためのスポーツサポート（スポサポ）事業」

2年目

NPO法人 ジョガボーラ

1 背景と目的

市内全体において不登校の児童生徒数は年々増えている。その中でも中学生が占める割合は全体の7%に及んでおり、各民間団体による無料の学習支援教室等は増えてきているが、運動等の体を動かせる施設が少ないという課題がある。

その様な中で、この「スポーツのまち・小山」において、地区内にできた新たなスポーツ施設を拠点として、不登校児童生徒に対して、心も身体も安心ができ、ともに遊びや運動ができることで喜びが得られるような居場所づくりを通じて、心身の健康の促進や社会への信頼・積極性につながる意欲を持たせるサポートを図ることを目的とする。

2 内容

- ・相模原スポーツ・レクリエーションパークにおいて、ボール遊び等の体を動かす遊びや、しりとり等の簡単な遊びを通したグループ活動を実施する。
- ・同じ境遇の同年代の生徒や、大学生等のボランティアとの交流を行う。さらに、その保護者同士の交流も図る。

総事業費：504,903円

うち交付金額：500,000円

3 成果と今後の展望

前年度と同様に、本活動により、子どもたちや学生・大人同士でも笑顔や感情、言葉によるやりとりの数が増えた。全体としても、安心して過ごす時間の中で、互いに意見を伝えあい、考えた遊びを積極的に進めることで、他者と一緒に行う活動を楽しめる喜びや、成長を感じる行動や言動が見られるようになった。

また、活動を継続することで、付き添いの保護者の方や放課後等デイサービスの先生方との会話の幅も広がり、互いに親近感や安心感が増した。最近の子どもたちや社会問題等についての情報交換や意見を伝えあうことで、やりがいを感じ、互いに向上心を高めることができた。

今後は、地域の方々や対象となる子どもや保護者たちとの関係をさらに深めながら、学校やその他の施設と連携を取ることで、問題解決の糸口や、子どもたちが成長できる居場所づくりとしての活動を引き続き行っていきたい。



スポーツサポート事業

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
5月～3月	相模原 スポーツ・ レクリエーション パーク	各2～7人 (延べ参加者 数約111人)	不登校児等を対象にしたスポーツサポート (全26回)
11月、2月	(Zoom)	計43人	不登校児童生徒等に関する研修 (計3回)

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 不登校児童生徒のための
スポーツサポート（スポサポ）事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	昨今、不登校児童生徒数が増えている中、当該事業はボール遊びを通じて子どもたちの居場所作りをするなど課題解決の一助となっている。 また、事業実施にあたり市関係課との連携や、地域の方を講師とした研修も実施した。これは各団体の連携強化にも繋がることであり、第2条第2項の視点を取り入れた事業となっている。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	遊び感覚を取り入れた体を動かす交流により、子どもたちが楽しむことの他、スタッフや大人たちとの信頼関係も築くことができている。 また、支出についても、ボランティア（指導員）への謝礼や、事業に必要な消耗品を購入しており、過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ◎ ○	本事業は、構成員の他、ボランティア（指導員）へも協力依頼をし実施された。事業の企画、運営に関しても団体内で完結しており、主体的に実施されたと言える。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	本事業は、地区内の各団体とも課題の共有を行ったことから、団体間との連携の一步になった。引き続き地区内の団体とも協働の上、本事業が実施されている。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	不登校児童生徒が楽しめるような事業を提供することができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「子どもの健全な育成環境の充実」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

小山地区「小山地域の人と人をつなげるプロジェクト」

4年目

小山の地域をつなげる会

1 背景と目的

地域における人と人とのつながりの希薄化が進んでおり、とりわけ子どもたちを対象とした活動場所や事業の少ないことが子どもたちの体験不足に繋がることが危惧されている。

こうした課題を解決するため、「遊び」、「学び」、「語らい・ふれあい」を中心とした子どもから高齢者までの多世代交流の事業を実施し、地域住民同士のつながりを深め、より安全安心で住みよいまちづくりの一助とすることを目的とする。

また、参加者にも自己負担を求めることにより、サークルの自立を見据えた事業の展開を行う。

2 内容

- ・多世代交流事業、コミュニティスクール（絵手紙教室、歌の集い、音楽と踊りの会など）
- ・大学生企画事業や外国人への支援活動
- ・小学校のコミュニティスクール参加（物づくり、昔遊び体験など）等

総事業費：161,194円

うち交付金額：109,000円

3 成果と今後の展望

地域の様々な団体との連携、協力のもとに昨年以上の事業を行うことにより、子ども、高齢者を中心とした多くの地域住民が触れ合う機会を提供することができた。

特に、今年度は民謡踊り講習を多く実施し、小山地区のお祭りや国際交流ラウンジでの発表、体験も行い幅広い関わりを持つことができた。

来年度も引き続き小山地域内外の団体と協力・連携を図り、地域住民同士のつながりをさらに深めるために事業内容の再検討を図りたい。



クリスマスコンサート

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
4月～11月	公民館	計22人	絵手紙教室（計3回開催）
5月～3月	公民館	計86人	歌の集い（計9回開催）
5月～3月	公民館	計114人	歌って踊ってもりあがろう（計11回開催）
7月	公民館	計11人	小山サマーフェスタ（民謡踊り発表）
7月	ラウンジ	計27人	インターナショナルサロン（盆踊り体験）
7月	公民館	計11人	こうようひまわり（小学生学習支援）
8月、2月	公民館	計59人	みんなのお話し会（計2回開催）
8月	ソレイユさがみ	128人	国際交流夏休み子どもスペシャル
8月	公民館	47人	昔遊びけん玉と駄菓子屋さん
9月	公民館 屋外スペース	多数	盆踊りと昔遊び
11月、2月	公民館	計43人	大学生企画事業（計2回開催）
12月	公民館	45人	クリスマスコンサート
1月	向陽小	155人	向陽小1年生昔遊び体験
2月、3月	公民館	多数	小山公民館まつり（展示・昔遊び・万華鏡）

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 小山地域の人と人をつなげるプロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ◎	地域団体の解散や行事の縮小化等により、地域住民同士の交流する場が減少している中、小山地区内の子どもから高齢者まで楽しめる多世代交流事業を計画・実施し、地域の活性化に貢献している。 また、地区内の活動団体（小山地区青少年健全育成協議会）と連携するとともに、今年度は新たに国際交流ラウンジでの発表や体験もを行い、年々発展性が見られる。第2条第2項の視点を取り入れた事業となっている。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ◎	本事業は、月に2回のペースで子どもから高齢者までが楽しめる事業を企画し、子ども同士はもちろん、子どもと大人が交流できる機会を作っていることから事業内容は妥当であったといえる。 また、支出についても、会議室等使用料、周知チラシ印刷代及び各種行事に係る消耗品購入費など、本事業を運営していくにあたって必要最低限の支出であり、過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ◎ ○	本事業は、構成団体をはじめ、小山地区内の関係諸団体との連携・協力によって実施されたものであり、全てにおいて自立的であるといえる。 講師についても、構成団体の知り合いのほか、人材を積極的に探しており、継続性が期待ができる。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	本事業により、多世代交流事業のニーズを把握できたことから、小山地区内の関係諸団体にも良い波及効果を与える事業になったといえる。来年度以降においてもさまざまな団体と交流しながら、多世代交流事業が実施されることを期待する。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	年間を通して多世代交流事業を実施し、地区の住民同士のつながりを深めていることから、所期の目的を達成していると言える。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「子どもの健全な育成環境の充実」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

A

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

清新地区「みなはし歌声広場プロジェクト」

みなはし歌声広場

1年目

1 背景と目的

高齢化が進み、独居老人や老々介護が社会的な問題となっているなか、地域の高齢者の心身の健康増進や地域コミュニティの形成に何か寄与できないものかという思いから、南橋本自治会館を中心に本事業は始まった。

南橋本自治会館以外の場所での活動範囲の拡大、現在は借用している歌詞集の自主製作、さらに自立した運営を確立するため地域活性化事業交付金を活用し事業を発展させること、併せて、周辺地域住民との交流を積極的に促すことで住民同士のつながりによる各種相乗効果を目的とした。

また、自治会未加入者が本事業に参加するために自治会館等へ足を運ぶことで、友人・知人等との会話を通じて自治会加入のきっかけとさせる。

2 内容

- ・月に1回南橋本自治会館にて、生伴奏による歌と軽体操を行う「みなはし歌声広場」を開催（「中央区の歌」と「相模原市民の歌」を奇数月、偶数月で交互に歌っている。）
- ・歌詞集を自主製作することで可能となる清新地区内の他の自治会館での活動や、多種多様なイベントとの参加連携の可能性を検討する。
- ・自治会員に限らず、広く友人・知人が音楽と軽体操を通じて参加できる場を設け、このまちでいつまでも仲良く、楽しく、健康で生きがいのある人生を送るための一助とする。

総事業費：257,311円

うち交付金額：46,000円

3 成果と今後の展望

南橋本地区だけでなく、周辺地域住民も参加し、健康で生きがいのある人生や交流の手助けに貢献している。年度後半からは、清新地区内の施設で2か所目の「歌声広場」が新たにスタートし、活動範囲を広げることができた。

帰り際に、『楽しかった』という言葉を多くいただくことができた。



歌声広場の様子



自主製作した歌詞集

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
4月から3月 各月1回	562人 (平均47人)	南橋本自治会館にて開催 「みなはし歌声広場」
10月から3月 各月1回	116人 (平均19人)	清新7丁目所在特別養護老人ホームにて開催 「清新歌声広場」

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： みなはし歌声広場プロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	南橋本自治会館のみであった開催場所を清新地区内の特別養護老人ホームにも拡大し、地域高齢者の心身の健康増進や、地域コミュニティの形成に寄与した。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ◎ ○	申請から実施、報告に至るまで代表が中心となって団体が主体的に取り組んでいた。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	地域包括支援センターが宣伝に協力してくれるなど、地域の団体との連携が生まれた。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	2会場で定期的を開催するようになったことで、総参加者数が増加し多くの人に生きる楽しみを提供した。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組に位置付けられている「地域ネットワークの充実」「高齢者の社会参加支援」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

清新地区「清新防災フェス」

1年目

清新防災フェス実行委員会

1 背景と目的

令和7年に入ってから日本では大きな地震が続いており、清新地区においても常に大規模災害が発生する危険性があることから、生活するうえで地域住民一人ひとりが「自助」「共助」の意識を常に持つことが大切である。

毎年、自治会ごとの防災訓練や避難所開設訓練、清新地区自主防災隊による合同訓練など地域における防災活動を実施しているが、防災に関する啓発活動をさらに行うべきであると感じており、防災の重要性を広く周知し、「自助」「共助」の必要性に対する地域住民の認識を高めていく必要がある。

地域住民が防災に興味を持てるような体験型の「防災フェスティバル」を開催することで地域住民の防災意識の向上、住民同士の連携・協力のきっかけづくり、地域防災の新たな担い手の確保に繋げる。

2 内容

日時：令和7年11月16日（日）10時から13時

会場：清新小学校 校庭および体育館

実施内容

校庭：消防車両等の展示、子ども用防火衣等の試着体験、起震車体験、煙体験、消火体験

企業ブース、キッチンカーによる軽食販売、相模原市消防団による放水実演

体育館：避難所体験コーナー、中央区ガチャブース、顔はめパネル、心肺蘇生体験

119番通報訓練、保存食展示

総事業費：570,913円

うち交付金額：521,000円

3 成果と今後の展望

防災フェスに約350人の来場者があり、地域住民に楽しんでもらうとともに、防災の大切さを伝えることができた。防災フェスの会場には、子どもから大人まで体験しながら防災を学ぶことができるコーナーを多く用意することができ、住民ひとり一人の防災意識の高揚に繋げることができた。

今後も防災に対する関心を喚起し、意識の高揚を持続させる取組を検討していく。



放水実演



MR消火訓練



保存食展示



起震車体験



避難所体験

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
4月から11月	各回約10人	委員会を約10回開催し企画立案・各種調整を行った。 チラシやポスターを作成・配布し周知や物品調達を実施。
11月16日（日）	約350人	清新小学校の校庭・体育館に各種体験型のコーナーを設置し、 体験者に防災ポーチをプレゼントした。

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 清新防災フェス

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	地域住民の防災意識の向上、住民同士の連携・協力のきっかけづくり、地域防災の新たな担い手の確保等を目的に、地域住民が防災に興味を持てるような体験型の「防災フェス」を開催したが、まちづくり会議で議論されている「防災」のテーマにも合致し、地域の公共的な活動団体間の連携強化も図れた。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ◎ ○	事業は実行委員会を中心に主体的に話し合いが行われ、当日の運営を含め実行委員会主導で円滑に実施された。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	地域の防災力を高めるために、共助の必要性等について、地域住民に広く周知することができ、非自治会員の自治会加入への端緒となることが期待される。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	子どもから高齢者までの層の方々約350人が参加し、防災に興味を持つきっかけを提供することができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組で位置付けられている「地域防災力の向上」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

清新地区「eスポーツでつむぐ世代の絆！～ 教え教えられ、みんなが主役～」

1年目

清新地区多世代eスポーツクラブ

1 背景と目的

- ・希薄化する世代間交流とコミュニティの弱体化を食い止めるため、eスポーツを共通言語とすることで、年齢や経験の違いによる心理的な壁を取り払い、地域における人々のつながりを持続的に強化する
- ・年齢・性別等に関わらず、フレイル予防としても期待できる「eスポーツ」を楽しみながら参加できる活動として定着させ、高齢者の社会参加と健康寿命の延伸を促進する。
- ・若者の地域活動への関心の低さを改善すべく、イベントの企画・運営に若者（子ども、学生）が積極的に関わる機会を創出し、地域に対する愛着と貢献意欲を育むとともに、地域の魅力を高める。

2 内容

- 1 ゲームコンテンツ「マイクラフト」を使用し地域の子どもたちに新しい発見を体験してもらう。
- 2 ゲームコンテンツ「太鼓の達人」を使用し地域の高齢者の方々と子どもたちで対戦してもらう。

※ 1で多世代の顔合わせをし、2で交流を深める。

開催日時：令和8年2月28日（土）10時から12時

開催場所：さがみはらオレンジサポートセンター（相模原市中央区清新5-3-1）

総事業費：339,900円

うち交付金額：328,000円

3 成果と今後の展望

ゲーム内容の工夫に加え、オレンジサポートセンター職員による読み聞かせ（紙芝居）の実施、卓球、幼児用遊具、駄菓子コーナー等を設けたことで、子どもたちは閉会まで約2時間会場にとどまり、多世代が自然に交流する場をつくることができた。

一方、中高生の参加がなかったため、次回は企画・運営に関わる中高生を募集し、「縦」「横」に加えて「斜めの関係性」も生み出していきたい。

総事業費339,900円を踏まえ、内容の質を保ちながら、次回は3～4割程度のコスト削減を目指し、継続的かつ持続可能な事業として実施できる体制づくりを進めていく必要がある。



マイクラフトの様子

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
1月～2月	各回5人	イベント企画・調整 イベント開催に向けて、マイクラフトの「ワールド」を製作
2月28日（土）	約90人	小学生30人、保護者約25人、高齢者約20人、 障がい者施設スタッフ5人、関係者10人

地域活性化事業交付金評価シート

事業名；

eスポーツでつむぐ世代の絆！
～教え教えられ、みんなが主役～

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	地域コミュニティの弱体化、高齢者の社会参加という地域課題の解消を目的として、多世代交流のきっかけとなるイベントの開催となった。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	本イベントの開催にあたっては委託業者に依頼する部分もあったものの、申請から実施、報告に至るまで団体が主体的に取り組んでいた。
			2 事業が主体的に実施されたか。	◎	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本イベントに参加した地区社会協議会の役員も運営主体や手法に感銘を受けており、共生社会実現へのきっかけにもなっていた。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	子どもから高齢者までの層の方々約90人が参加し、多世代交流の場を提供することができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組で位置付けられている「地域ネットワークの充実」「高齢者の社会参加支援」に該当する事業と言える。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

清新地区「子育て世代応援事業プロジェクト」

Kids Fine

3年目

1 背景と目的

- ・核家族化が進む地域の中で、子育てに悩みを抱えている方が孤立しないための場所を提供し、支援を行うための拠点を置き活動をスタートした。
- ・具体的には、子どもセンターなどにも足を運べない孤立しがちな親子に、寄り添って相談できる場所が少ないことから、医療機関や行政の子育て相談窓口の役割を補完し、より暮らしやすく、住みやすい地域を目指し、地区において、孤立しないで笑顔で、リラックスできる空間の中で、子育て中の親子が交流する場の提供を目的とする。また、3年目となる事業であるため、自治会や地域団体とも更に協力を促進する。

2 内容

①子どもや子育て家庭等のニーズに応じた育児相談

子どもや子育て家庭が抱える様々な場面での悩み等に気軽に相談する場所また必要な方に福祉サービスや行政につなげていける案内所の役割

②育児不安の軽減のための保護者同士の情報交換の場の確保

育児で孤立することなく楽しんで子育てができるよう、保護者同士で気軽に集い育児の悩みや不安を共有・共感できる情報交換の場

③子どもの遊び場＆居場所の確保

乳幼児期の親子の遊び場の充実を図り保育経験を活かしたおうち時間のあそびの提供

総事業費：444,518円

うち交付金額：224,000円

3 成果と今後の展望

子育てに悩みを抱えている方が孤立しないための場づくりという、当初の目的が達成されつつあるとともに、相乗的に子育てに関連する企業や団体との連携なども行われるようになってきている。

地域の関連団体とも信頼関係が構築され、県や市からも地域貢献や持続可能な取組が評価され、表彰を受けた。参加者に一定の負担を求めながら、継続的に事業を行っていく予定である。



おててアート



子育て交流会の様子 ~HPより~

(参考) 実施経過

実施日	参加人数	内 容
4月から2月 各月3回	248人 (33回合計)	ねとねともぐもぐ、おててアート、バレトン、子どもヨガ
4月	41人	桜まつり・ワークショップ
7月	20人	上溝まつり、銀河まつり
10月	22人	市民フェスタ、ワークショップ
11月	30人	公民館まつり、お仕事体験（淵野辺公園）

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 子育て世代応援事業プロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	◎ ○ ○	地域の子育て世代が孤立することなく子育てを楽しめる環境作りに資することができている。積極的に地域と関わることにより、清新地区全体の活性化にもつなげることができた。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	本事業は地域の子育て世代が孤立することなく子育てを楽しめる環境作りに資する事を目的としており、事業内容は妥当であった。支出についても、講師謝礼や材料費などに使われ、過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ◎	事業は継続的に実施されており、構成団体員や講師など多様な人材によって成り立っていた。運営も含めて主体的に行われており、一定の参加者負担を求めるなど自己資金の確保にも努めている。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	◎ ○	本事業により、子育て世代のニーズを把握できたことから、清新地区内の関係諸団体にも良い波及効果を与える事業になったといえる。また、同類事業を展開する地区社協の役員などに運営のアドバイスをいただけたことは、他団体との連携強化に資しお互いに良い波及効果が得られたものとなった。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	限られた担い手の中で無事に開催することができた。参加者からも喜びの声を聞くことができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「子どもの健全な育成環境の充実」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業と言える。また、外部講師を招くことや、自治会と交流を行うなど、地域資源を生かした事業であった。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

A

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

横山地区「GO, GO横山！まちづくりプロジェクト」

ALL 横山 Kizuna プロジェクト実行委員会

1年目

1 背景と目的

横山地区内では、自治会員の減少や地域コミュニティを担う組織の解散が起き、コミュニケーションの希薄化や担い手不足という現実問題に直面しており、その影響による活気の低迷が懸念されている。

横山地区の福祉に関わる全ての団体に横串を刺し、連携を強固にさせた新たな組織「ALL 横山 Kizuna プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、活動を開始した。

2 内容

①「Kizuna パーキング」の設置

活動趣旨に賛同いただいた敷地に、医療・福祉介護従事者専用駐車場として「Kizuna パーキング」を73か所設置。

②「Kizuna ベンチ」の設置

ベンチ・イスを設置し、買物や通院等に「ちょっと顔を会わせられる場所」を提供し、見守りや災害時の安否確認などに役立つスポットとして11か所設置。

③活動の情報発信・「Kizuna パーキング」や「Kizuna ベンチ」の看板に横山地域包括支援センターのホームページ二次元コードを貼付し、当該事業の紹介や地域住民の活動を発信する。

総事業費：590,651円

うち交付金額：590,000円

3 成果と今後の展望

医療・福祉介護従事者に専用の駐車場を提供することで、円滑なサービスの提供が図られており、駐車場の提供者も増え続けている。また、もう一つの課題で高齢者が希望された安心して外出できる環境として、地域にベンチ設置をすることができ、設置後、多くの地域住民から喜びの声が届いた。ベンチ設置を希望される地域が多く、今後広がりが見られる。

また、看板設置協力者から意見をお聞きする場を作り、必要な地域資源について情報収集を行い、当該プロジェクトをきっかけとして地域情報のポータルサイトの開設等も行っていきたい。



Kizunaイス設置

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
4月～5月	横山公民館	各7人	課題確認、事業を検討。実施内容（企画案）を横山地区まちづくり会議において情報提供
6月	横山公民館	7人	案内板作成見積もり
9月	横山公民館	7人	実施内容を精査・申請書案作成 横山地区まちづくり会議にて事業プレゼン・意見聴取
10月	横山公民館	7人	案内板のデザイン調整・決定
11月～2月	横山公民館	各7人	案内板設置、地域内・外への周知、精算
3月	横山公民館	7人	振り返り、来年度の取組を検討

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： GO,GO横山！まちづくりプロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ◎	高齢化に伴う介護予防、高齢者・障がい者への移動支援、地域の空きスペースの活用、地域全体を見守り合う仕組みづくりという課題の解決に向けた取組であり、公共的な活動への参加者増加、地域の公共的な活動団体間の連携強化につながった。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	◎ ◎ ○	福祉関係者団体が連携して、主体的に事業が実施された。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	本事業で11ヶ所に設置した「外出支援ベンチ」の設置を希望する地域が多く、今後の広がりが期待される。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	医療・福祉介護従事者に専用の駐車場を提供することで、円滑なサービスの提供が図られており、駐車場の提供者も増え続けている。また、高齢者が安心して外出できる環境の整備ができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組で位置付けられている「地域ネットワークの充実」「高齢者の社会参加支援」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

A

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

横山地区「よこやま元気に登校！安全登校！プロジェクト」

1年目

横山児童見守り推進プロジェクト実行委員会

1 背景と目的

小学校とPTAによる登下校時の見守り体制について人的な整備が進んだが、登下校時のより安全な体制づくりのための日常的な認識（特に危険箇所）を促すツールが整備されておらず、対応が求められている。現在設置されている、登校班の集合場所看板は、昭和の頃に設置された古い看板で老朽化はもとより、解散により現存しなくなった子ども会の看板が掲出されているほか、防犯上の観点から固定位置に設置することの是非など、運用のアップデートが求められている。

また、その運用の土台として重要な要素となる「元気なあいさつ」は、地域内のコミュニケーションを維持・向上させる上で欠かせない言動（振る舞い）であり、その大切さを次代を担う子どもたちにあらためて伝えていくことが求められている。

2 内容

- ・登下校時の要所（危険箇所、登校班集合場所、こども110番の家など）に、子どもたちの安全な登下校にかかる注意喚起と元気なあいさつによる地域住民とのコミュニケーションを向上させることを主眼とした掲示板を設置する。
- ・掲示内容は小学生の描いた絵を土台に、「飛び出し注意」「交通ルールを守ろう」「元気なあいさつ」などを表記。
- ・掲示板の内容について、チラシ等で地区内外に周知を行う。
- ・学校、PTA、見守りサポート従事者などを対象とした勉強会（講習会）を実施する。

総事業費：400,308円

うち交付金額：400,000円

3 成果と今後の展望

小学校や公民館等主要ポイントに詳細内容を記載した掲示板を設置した。登下校時の目視確認の起点として活用し、今後は安全安心まちづくりの一環として掲示板の有効性を確認する。

掲示板の保全や設置個所の適正化について、見守り活動の中で継続的に実施し、地区内における交通事故の発生件数の推移等を把握し、当該事業の効果検証を行う。



児童が作成した看板を設置

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
7月	横山公民館	12人	掲示板内容（デザイン・事業費等）検討、横山小学校へ趣旨説明・掲示物作画依頼
8月	横山公民館	12人	設置場所調査、下九沢見守り隊、作の口小学校へ趣旨説明・協力依頼
9月	横山公民館	12人	横山地区まちづくり会議において事業企画の情報提供
10月	横山公民館	12人	横山地区まちづくり会議にて事業プレゼン・意見聴取
11～12月	横山公民館	12人	掲示板・チラシ等発注、関係者に周知、掲示板設置
3月	横山公民館	12人	精算、安全・安心まちづくり推進協議会横山支部役員会での報告

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： よこやま元気に登校！安全登校！プロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	小学生の安全な登下校のための見守りとコミュニケーション活性化を目的として発足した事業であり、子どもたちの自衛意識の向上、地域の明るい元気なコミュニケーションの向上により、交通安全・防犯力の強化につなげるものであった。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	◎ ○ ○	地域内の各種団体が協力して、小学校に事業協力依頼をするなど、主体的に活動しており、次年度以降の計画・展望も策定しており、今後の活動が期待される。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	小学生に掲示板のイラスト作成を依頼する等、小学生に対して交通安全・防犯・地域愛を意識付けさせる事業であった。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	地域住民が交通安全・防犯・地域愛を考えるきっかけになった。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組で位置付けられている「交通事故防止対策の推進」「犯罪の未然防止」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間で改善が困難と見込まれる場合

中央地区「こども安全・安心事業」

中央地区こども安全委員会

1 年 目

1 背景と目的

近年の子どもたちは交通事故、犯罪、災害等の様々な危険にさらされており、令和7年度中央地区まちづくり会議でも「子どもの安全対策と地域の関わり方」をテーマとして議論しているところである。その中で、時代の変化とともに地域の関係性が希薄となり、子どもを見守る体制がなくなってきたことが問題の1つとして挙げられた。そのため、その解決策の1つとして、地域として子どもたちの見守り活動を実施、推進していくもの。

2 内容

○「ながら見守り活動」の普及啓発

- ・普段から地域の人に「ながら見守り活動」を行ってもらうために、市の「ながら見守り活動者」への登録を促し、見守り活動時に身に着けるグッズを作成。
- ・子どもたちに「このグッズを身に着けている人は見守り活動をしてきている」ということを周知するためのPRチラシの作成、配布。

○下校時の見守り活動の実施（通学路に立って行うもの）

総事業費：388,004円

うち交付金額：388,000円

3 成果と今後の展望

通学路に立っての見守り活動では、自治会や民生委員等様々な人に声をかけ参加してもらうことで、普段から子どもたちを見守る地域の意識づくりのきっかけになった。また、見守り活動時に身に着けるグッズ（サコッシュ）を作成することで、地域で活動してくれる人の目印とすることができた。

今回初めて見守り活動に参加した人にとっては、地域で子どもを見守ることの意識を持つきっかけになった。サコッシュも好評で、普段から持ち歩くことで「ながら見守り活動」のPRになっている。実際に委員を通じて旗振りボランティアの方から問い合わせもいただき、地域の安全に貢献したいという気持ちを育むことができた。

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
令和 8年1月28日	中央地区内の通学路	約90人	通学路での見守り活動実施
令和 8年 1～3月	—	—	見守り用グッズ（サコッシュ）の作成・配布
令和 8年 3月～	—	—	学校、地域へ周知（チラシ配布）



見守り活動周知用チラシとサコッシュ

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： こども安全・安心事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	地域の関係性の希薄化は近年全国的にも課題となっている状況であり、自治会加入率の低い中央地区においても深刻である。当該事業を実施することで、住民意識の形成につながることから、課題に即した目的の設定となっている。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	ながら見守り活動のように「できることから始める」というのは、住民の意識づくりのきっかけとなる。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	様々な団体で連携・協力して実施しており、中心となる委員を軸に主体的に実施されている。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	◎ ○	見守り活動の目印となるグッズ（サコッシュ）を作成したことで、それを目にした他地区の団体等から参考にしたい等の評価を得ている。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	住民の意識形成、子どもと大人の関係性の構築の第一歩となっている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本項目のすべての評価の基準を満たしている。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

星が丘地区「地域を知り利用し皆友達プロジェクト」

1年目

ビー フレンド

1 背景と目的

地域には多くの施設があるが、障がい者施設を知る人は特に少なく、また、外国人も近所に多く住んでいるが交流がない状況である。

公民館の敷地内で障がい者施設や外国人、地域住民が販売会を実施することで、住民が施設を知るとともに、今まで公民館を利用したことがない人が公民館を利用し、交流を深めてもらうことを目的とする。

2 内容

- 公民館の出入り口横の軒下部分で、机2台を並べ、周辺にのぼり旗を立てアピールしながら、定期的な販売会を実施する。
- 販売会では、近隣の社会福祉法人等の公共的な団体や地域住民と連携し、当該施設で作られた小物・食べ物の販売や、地域の家庭菜園で収穫されたものや不用品等を販売する。
- 地域情報紙に出店者の募集や販売会の周知を行い、また、英語や中国語等を併記したチラシを公民館や各施設等に配架する。

総事業費：99,440円

うち交付金額：99,000円

3 成果と今後の展望

販売会を実施したことで、各団体、障がい者施設同士のコミュニケーションが図られ、施設運営をする上でも良い波及効果が得られたことは想定外であった。さらに、公民館の外で販売会を実施したことにより、地区内に障がい者施設があることを今まで知らなかった地元住民が障がい者施設を認知する機会になった。

また、チラシの裏面には多言語版（英語、中国語、ベトナム語、クメール語）で販売会の案内を記載し、外国人にとっても分かりやすいチラシを作成することが出来た。

今後の展望として、「継続は力なり」と思っているため、多くの人が散歩と会話を楽しめるよう工夫していきたい。



販売会時の様子

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
9月22日～ 11月21日	星が丘公民館	計80人	のぼり旗やチラシ、実施等の打ち合わせ (計8回)
10月1日			出店者募集記事を掲載（地域情報紙）
1月～			チラシ配布・配架 (公民館、地域団体、障がい者施設等)
3月4日	星が丘公民館		販売会実施（第一週 外国人団体）
3月11日	星が丘公民館		販売会実施（第二週 障がい者施設）
3月18日	星が丘公民館		販売会実施（第三週 障がい者施設）
3月25日	星が丘公民館		販売会実施（第四週 障がい者施設）

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 地域を知り利用し皆友達プロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ◎ ○	打ち合わせを定期的に行い、のぼり旗やチラシ、実施方法について自主的に話し合い決めていた。また、時にはSNSツールを通じて情報共有を図っていた。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	それぞれの障がい者施設の職員が顔を合わせることで、情報交換がなされ、施設運営についても良い波及効果を得られた。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	販売会を介して、地域住民と施設や施設同士の交流が図ることができ、交流を深めてもらうという目的が達成できた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	地区内の障がい者施設や外国人団体が直接地域の人と直接話しをすることで、当該施設・団体の認知向上及び相互理解の一助となった。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

星が丘地区「すずかけのき再生プロジェクト」

すずかけのき再生プロジェクトチーム

2年目

1 背景と目的

星が丘公民館の改修工事に伴い伐採されたスズカケノキが、令和6年度の事業で羽子板やけん玉、KUMINO（きぐみのつみき）へ生まれ変わった。

令和7年度では、予算の関係で見送った独楽と不足分のKUMINOをスズカケノキで作ってもらい、星が丘地区の住民たちがスズカケノキに触れる機会を増やしていきたい。

2 内容

【製作物】独楽、KUMINO

- 独楽を星が丘小学校1年生との「昔遊びで多世代交流」の時間で、地域の人が小学生に昔遊びを教える道具として使用する。
- 小学生を対象としたKUMINOで遊ぶイベント「きぐみのつみき KUMINOで遊ぼう！」を実施する。
- イベントの時には製作物がスズカケノキから作られていることを、写真を見せながら説明する。

総事業費：564,000円

うち交付金額：564,000円

3 成果と今後の展望

思い出の樹木を再生したKUMINOに触れることで、子どもたちの自由な発想力が大いに掻き立てられ、豊かな創造力を培うことができた。

さらに、手触りや木の種類による重みの違いを知る等、木育においても大変効果があったと思う。

昔遊びで多世代交流では、子どもたちが身体を使って楽しく遊び方を覚えられて良かった。

また、教える側の高齢者と教わる側の子どもの交流に貢献が出来た。

今後の展望として、KUMINOは夏休みを利用して小中学生を対象に令和8年7月に実施したいと考えている。

昔遊びで多世代交流は令和9年1月の授業時間に実施する予定である。



KUMINOで遊んでいる時の様子

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
6月13日	千代田7丁目自治会館	40人	千代田いこいの広場 (KUMINOを使った遊び)
7月5日	星が丘公民館	21人	アロハ (羽子板、けん玉を使った昔遊び)
11月26日	星が丘公民館	5人	打ち合わせ
11月29日	星が丘公民館	21人	きぐみのつみき KUMINOで遊ぼう！
1月21日	星が丘小学校	157人	昔遊びで多世代交流 (羽子板、けん玉、独楽を使った昔遊び)

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； すずかけのき再生プロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	長年星が丘地区の住民に親しまれていた「スズカケノキ」が、子どもから高齢者まで楽しめる玩具に生まれ変わった。 事業実施2年目は1年目よりもイベントの回数を増やしており、星が丘地区内の住民同士の交流や知育・木育に寄与していた。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	他団体の活動でも玩具を提供し、子どもや高齢者が遊べる機会を増やしており、良い波及効果を与えている。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	◎	イベント参加者からも評価の高い感想が出ており、目標を達成している。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ◎ ○	スズカケノキという星が丘地区の地域資源を活用し、子どもから高齢者まで交流でき、楽しめる事業になっている。 また、子どもにとってKUMINOの遊びは、創造力を掻き立て、子どもたちの健全育成にも寄与している。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない
 又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間で改善が困難と見込まれる場合

星が丘地区「緊急時安心サポート事業」

地域の高齢者の生活を考える会

3年目

1 背景と目的

単身高齢者等の世帯の増加や認知症予備軍の増加が社会問題となるなか、高齢者は「急病による救急対応」や「道に迷って保護される」などの事案が他の世代よりも多く、緊急時に個人情報分が分からず適切な対応を取ることができないことがある。

そのため、急病による救急対応等が発生した場合に適切な対応を受け、地域住民が住み慣れた地域で生活が続けられることを目的に、平成29年、令和元年に「とっさの時の安心カード」を配布したが、当時から数年が経過し、記入内容にも変更がある可能性を考慮して再度配布をする。

また、今年度は「とっさの時の安心カード」を配布するとともに、自治会加入促進を図る。

2 内容

- ・「とっさの時の安心カード」は前回の残りを利用し、新たに「利用目的カード」「カードケース」を作成。セットで配布する。
- ・80歳以上の高齢者に戸別訪問して配布するとともに、自治会連合会や包括支援センターにおいては各行事等の参加者に配布する。
- ・地域情報紙を通して希望者に随時配布する。
- ・「利用目的カード」に自治会加入促進の文章を入れる。

総事業費：137,138円

うち交付金額：137,000円

3 成果と今後の展望

「とっさの時の安心カード」を80歳以上の高齢者約1,900人に配布することが出来た。地域住民がカードを携帯することで、万が一急病による救急対応や道に迷う等で保護された際に、適切な対応を受けることが出来るようになり、地域住民が住み慣れた地域で、安心して生活する一助になった。

また、とっさの時の安心カード、利用目的カード、カードケースをセットに直接配布したことで、利用者にとって分かりやすい物になった。

今後の展望として、対象者や記載内容が変わるため、数年に一度対象者に配布していきたい。

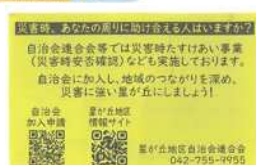
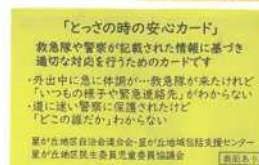


表 裏

とっさの時の安心カード
利用目的カード

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
5月20日	星が丘公民館	2人	打ち合わせ
5月24日	星が丘公民館	7人	「とっさの時の安心カード」「利用目的カード」「カードケース」の検討
6月2日	星が丘公民館	7人	「とっさの時の安心カード」「利用目的カード」「カードケース」の最終調整
9月5日	星が丘公民館	6人	「とっさの時の安心カード」「利用目的カード」「カードケース」配布の準備
9月11日		24人	80歳以上の高齢者に配布
11月1日			地域情報紙に当該事業について掲載

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 緊急時安心サポート事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	地域から「とっさの時の安心カード」の利用用途が分かりづらいという声を聞き、説明文書のメモを添えるといった新しい試みを実施している。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	自分たちでカードと説明文書をケースに入れる作業を行うことで、支出を抑えていた。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ◎ ○	当該事業について、利用者からの意見を聞き、新たに説明文書を添える工夫をしたうえで、直接約1,900人のご自宅へ配布しており、主体的に事業を実施したと言える。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	民生委員児童委員協議会が主体となって取り組みつつ、地区自治会連合会と地域包括支援センターも協力してカードの配布を実施している。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	カードを携帯することで、急病による緊急対応等に役立つことが出来る。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

星が丘地区「自治会回覧板のD X化」

星が丘地区自治会DX化促進会

3年目

1 背景と目的

令和6年度に電子回覧システムの作り直しを行ったため、昨年度は電子回覧の登録募集ができず、登録者数が目標よりも低い数字になってしまった。今後も継続して電子回覧を行うために、令和7年度では登録者を増やし、電子回覧の事業を星が丘地区内に浸透させる必要がある。

2 内容

- 電子回覧（メールマガジンの配信）の実施
- 電子回覧の周知
 - 地域情報紙に掲載
 - 電子回覧の登録案内用チラシを作成・配布
 - 自治会長会議で自治会長へ周知

総事業費：135,000円

うち交付金額：135,000円

3 成果と今後の展望

10月に電子回覧周知のチラシを回覧したところ、新規登録者数が約100名となり、電子回覧の周知に一定の効果があつた。

単位自治会のお祭りに関する情報や緊急的なお知らせも迅速に自治会員へ周知することができ、電子回覧のメリットを生かすことができた。

今後の展望としては、今年度の事業で登録者数は増えたが、全体数を鑑みると依然として低い状況のため、次年度以降も引き続き電子回覧の周知をし、登録者数を増やすことで、広告収入で事業費を賄えるようにしていきたい。



電子回覧の配信内容

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
毎月上旬			地域情報紙、お元気ですかを配信
随時			公民館報、単位自治会の回覧、市からのお知らせを配信
5月10日	星が丘公民館	16人	自治会長会議で電子回覧について説明
9月4日		6人	打ち合わせ
9月13日		16人	・自治会長へ電子回覧周知のチラシを配布及び説明 ・自治会長へ登録者名簿の配布
10月1日			各単位自治会で電子回覧周知のチラシを回覧
12月13日		16人	自治会長へ登録者名簿の配布
3月14日		14人	自治会長へ登録者名簿の配布

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 自治会回覧板のDX化

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	昨年同様、自治会員の回覧板を回す負担を軽減することで、まちづくり会議の地域の課題にある「持続可能な事業・団体運営」についての取組に繋がった。 また、電子回覧の登録者が伸びないなかで、今年度は電子回覧の周知に力を入れることで登録者数を増やした。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	広告収入を得られるほどの登録者数にはならなかったが、来年度も実施できるよう関係団体と調整し、事業が継続される見通しである。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	電子回覧は地区外の自治会も関心を寄せており、地区全体の導入は先駆的な事例となる。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	「回覧板を回すのが大変」という声に対し、回覧板を回さずに情報を得る仕組みを作ることが出来た。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

光が丘地区「すぎの子地域交流促進活動事業」

ポケットクラブ

1年目

1 背景と目的

地区の自治会加入率低下などに伴い、住民同士の繋がりが希薄になりつつある現状を鑑みて、住民同士の交流を深め「顔と顔の繋がり」がもてる場づくりが必要とされている。

このことから、住民同士の相互理解を深め、災害時など有事の際にも相互扶助が円滑に行われるようにすることを目的に、自治会非加入者も含めて、だれもが参加しやすい事業を展開し、居住者間のつながりや、コミュニケーションの機会を増やすことで地域の活性化を図るもの。

2 内容

ピンポン、絵本の読み聞かせ、ナイトヨガ、すぎの子オータムコンサート、つまみ細工で作るX'masオーナメント、マジックショー&教室、特別講演会の開催。

※ 年間を通じて、月に1回程度開催した。

※ 会場の光が丘ハイム集会所の使用に当たっては、杉の子自治会が協力した。

総事業費：104,092円

うち交付金額：96,000円

3 成果と今後の展望

「物作り」、「読み聞かせ」等々の事業開催によって、接触のほとんどない子どもたちとの交流ができ、日頃の声がけに繋がった。また、「ナイトヨガ」においては日中働いているお母さん方の参加があった。そのほか、世代を問わず参加できるイベントにおいては、次年度の開催希望が多く寄せられた。

今後について、オータムコンサートは継続開催の希望を受け10月に開催を予定している。また、新たな協力団体、個人の情報収集を行い、文化的な事業に反映したいと考える。主催者も参加者も共に楽しめる内容としたい。



10月25日開催
杉の子オータムコンサートの様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
6月29日	光が丘ハイム集会所	15人	読み聞かせ会「絵本とあそび」の開催
7月、10月、11月、1月、2月		計17人	「ナイトヨガ」の開催
8月6日		12人	「夏休み自習室（小学生対象）」の開催
10月25日		41人	「杉の子オータムコンサート」の開催
12月21日		15人	「つまみ細工で作るX'masオーナメント」の開催
2月21日		21人	「マジックショー&教室」の開催
3月14日		14人	特別講演「イヌがいると幸せになる！？～イヌとヒトはもっとも古い最良の友ですその魅力を探ります～」の開催

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： すぎの子地域交流促進活動事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	交流の場やコミュニケーションの機会が減少していることは、地域課題としてまちづくり会議等に取り上げられており、地域課題に則した目的の設定ができています。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	ポケットクラブが中心となり、会場や周知等の調整を行い、年間を通じて複数回事業を実施できたことは、自立に向けて前進できたと言える。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	次年度の開催希望が多く寄せられたことや活動により交流が図られたことは、今後の発展が見込まれる。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	事業を行ったことで、目標のコミュニケーションの機会創出に繋がったと考える。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	区別基本計画の「重点的な取組」に合致する事業となっている。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間で改善が困難と見込まれる場合

光が丘地区「みらいく（地域のつながりを未来（次世代）へと繋ぎ、育てる事業）」

1年目

地域を耕す会tagaiyas

1 背景と目的

高齢化と自治会離れが同時進行する昨今、子育て世代は地域活動からますます遠ざかっており、子育て世代が地域の運営に関する話し合いや決定の場にほとんど加わらないことから、このままでは地域活動の世代交代が危ぶまれる。

本事業は、年間を通じて親子を中心に子育て世代の関心を惹く取組を実施することで、地域活動に参画させ、地域活動をポジティブに捉えられるマインドを育み、自治会加入促進にも繋げることを目的とする。

2 内容

事業名	内 容
かんたんぱん&いろがわりドリンク (Scienceキッチン)	発酵不要な短時間でできるパンづくりと色が変わるドリンクづくり
サッカーフェスティバル with 青学サッカー部	サッカー教室とミニゲーム ※インフルエンザ感染拡大の影響で当日は中止
ハンドメイド クリスマスリース	手軽に手に入る素材を使った、ボリュームのあるクリスマスリースづくり
おいでよ、野球体験パーク	地域の野球初心者子どもたちに「捕る・打つ・投げる」を教え、最後にミニゲームを開催
クッキー&クラフト	袋の中に材料を入れてこねるだけでできるクッキーづくりと自作のクッキーを入れて飾れるフレーム（箱）づくり

※ 事業実施後には、参加者同士が交流できるティータイムの時間を設けたり、フォトブースを設置して記念撮影を行うことも実施。

総事業費：126,500円

うち交付金額：104,000円

3 成果と今後の展望

料理、クラフト、スポーツといった多様な体験型事業を無料あるいは低額で楽しめるように企画したことで、地域参加率が低いといわれる子育て世代に、地域への関心や参加への意欲を抱かせることができた。また、自治パスの提示で参加費の割引を行ったため、自治会員に加入のメリットを体感してもらえた。

今年度実施した事業のうち、料理やクラフトなどは特に人気が高く、希望しながら参加が叶わなかった方が多くいたため、実施した事業を改善・継続することで、今後はそうした方たちも参加できる機会をつくりたい。

（参考）実施経過



イベントの様子
(写真はハンドメイドクリスマスリース)

実施日	実施場所	参加人数	内 容
9月7日	光が丘公民館	34人	「かんたんぱん&いろがわりドリンク」の開催
12月5日	光が丘公民館	10人	「ハンドメイドクリスマスリース」の開催
1月25日	並木小学校	15人	「おいでよ、野球体験パーク」の開催
1月31日	光が丘公民館	18人	「クッキー&クラフト」の開催

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： みらいく（地域のつながりを
未来（次世代）へと繋ぎ、育てる事業）

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	交流の場やコミュニケーションの機会が減少していることは、地域課題としてまちづくり会議等に取り上げられており、地域課題に即した目的の設定ができています。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	代表者を中心に、円滑な団体運営が行われた。また、光が丘地区自治会連合会や関連する団体と連携し、専門的な知識を持つ人材からの協力を得られる体制となっている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	◎	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	多様な企画をしたことで、広く交流が生まれたことと認識している。短時間で定員に達した事業が複数あり、今後このような活動の輪がさらに広がっていくことを期待したい。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	設定した目標は達成されている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	区別基本計画の「重点的な取組」に合致する事業となっている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

光が丘地区「乱横断防止及び特殊詐欺対策等の意識向上事業」

1 年目

光が丘地区交通安全事故防止委員会

1 背景と目的

ヤオコー相模原光が丘店前の相武台相模原線（県道507号）沿いにおいては、乱横断行為が度々目撃され、重大な交通事故がいつ発生してもおかしくない状況となっている。また、特殊詐欺等の被害について、特に光が丘地区においては被害総額が高額化している状況がある。

このことから、本事業は地区内全体の交通安全及び防犯意識を向上させ、交通事故や特殊詐欺等の被害を防ぐことを目的とする。

2 内容

- 啓発横断幕の作成・設置及び啓発物品やチラシの作成・配布
- 啓発チラシは、ポスティングによる光が丘地区内全戸配布を実施
- 横断幕の張り替え作業に合わせた啓発活動

日時：令和8年1月29日（木）

場所：ヤオコー相模原光が丘店前及び光が丘小学校前交差点付近の歩道

総事業費：466,540円

うち交付金額：430,000円

3 成果と今後の展望

光が丘地区内で問題視されている交通安全や防犯対策について、啓発チラシの地区内全戸配布など集中的に取り組んだことで、効果的に住民周知を行うことができた。

また、啓発活動を光が丘地区自治会連合会、相模原警察署、光が丘地区交通安全母の会などの団体が一体となって実施したことで、相互交流も図られた。

今後も地区内の関係団体との連携を行いながら、地区内の交通事故や特殊詐欺等被害が減少するよう、啓発活動を継続して行っていきたいと考えている。



啓発チラシ



乱横断防止の啓発横断幕

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
1月10日	旧青葉小学校	約100人	光が丘地区賀詞交歓会で啓発物品を配布
1月29日	歩道（ヤオコー相模原光が丘店前等）	約20人	横断幕の設置作業、啓発チラシ、物品の配布
2月	光が丘地区全域	—	啓発チラシの光が丘地区内全戸配布
2月～3月	光が丘公民館 陽光台公民館	—	啓発物品の配架
3月1日	光が丘公民館	約80人	相模原警察署員による講話で啓発チラシ、物品を配布

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 乱横断防止及び
特殊詐欺対策等の意識向上事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	地区内の交通安全や防犯対策については、地域課題としてまちづくり会議等で取り上げられており、地域課題に即した目的の設定ができています。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	代表者を中心に、円滑な団体運営が行われた。また、光が丘地区自治会連合会や関連する団体と連携し、広く地域内の協力を得られる体制となっている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	啓発活動を通じて他団体と交流できたことは、今後の活動へ繋がるものと期待できる。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	設定した目標は達成されている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	区別基本計画の「重点的な取組」に合致する事業となっている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

光が丘地区「中学生による防災マップ作成事業」

1年目

中学生防災マップ作成実行委員会

1 背景と目的

光が丘地区こどもまちづくり会議では、中学生にとって住みやすいまちづくりという視点で毎回、課題となっていること、話題になっていること、困っていることなどを話し合い、様々なことを実施してきた。本防災マップは令和5年度の会議から（最初はマップではなく防災マニュアルとして）企画検討されてきたものである。

今回作成した防災マップは、中学生の視点で、いざというときに自分の命を守ること、家族の安否を確認すること、さらに地域においてマンパワーとして行動をとるための手助けとなることを目的としている。

2 内容

- ・防災マップの作成、配布

作成数 3,000部

内 容 表面 公衆電話のかけ方、緊急通報先、災害用伝言ダイヤル、常に携帯していると便利なもの、落雷時に注意すること、災害時の避難場所など、中学生の視点で役立つ情報を掲載

裏面 光が丘地区の地図にAED設置場所、公衆電話、災害用自販機、公共施設、避難所、クールシェア実施場所などを掲載

配布先 並木小学校、光が丘小学校、陽光台小学校、緑が丘中学校、弥栄中学校

総事業費：520,080円

うち交付金額：520,000円

3 成果と今後の展望

この防災マップには、一般的な防災マップ等にはない、学校に通う児童生徒が必要とする情報が掲載されているため、特に子どもたちの防災力向上に寄与するものと考えられる。

また、特殊な工法で小さくたためて常時携帯できるサイズにしたことで、いざという時に役に立てられるようになっている。

会議を重ねながら掲載事項を整理し、マップとして形にできたことで、作成に携わった子どもたちがやりがいを感じ、学校間の連携強化にもつながった。今後も自治会や関係団体と連携しながら検討や修正を重ねてマップを更新していきたい。



防災マップ

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
1月～2月	光が丘公民館等	－	マップ作成に向けた掲載内容の調整
2月	－	－	マップの印刷依頼
3月	並木小学校、光が丘小学校、陽光台小学校、緑が丘中学校、弥栄中学校	(作成数) 3,000部	マップの納品、配送、配布

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 中学生による防災マップ作成事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	地区内の防災力向上については、地域課題としてまちづくり会議等で取り上げられており、地域課題に即した目的の設定ができています。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	代表者を中心に、円滑な団体運営が行われた。また、小中学校や自治会、関連する団体が連携し、広く地域内の協力を得られる体制となっている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	今回新たに実行委員会を立ち上げ、こどもまちづくり会議等を通じて中学生の視点で話し合い、マップを作成したことは、他地区でも参考になる取組であり、特に小中学生の防災力向上の視点で、とても貢献していると考えます。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	◎	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	設定した目標は達成されている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	区別基本計画の「重点的な取組」に合致する事業となっている。複数の学校が連携し、児童生徒たちによる会議体が設けられていることは独自性を持ち、他団体等の参考になる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	◎	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	◎	

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

A

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

大野北地区「宇宙を感じる地域づくり事業」

手筒花火星空実行委員会

1年目

1 背景と目的

大野北地区は複数の大学が立地していることやJAXA相模原キャンパスの最寄り駅であること、図書館、地区公園があることなど、市内でも文化的な色合いの濃い地区である。このため、大野北地区が持つ多様な文化資源（学術、宇宙科学、自然、既存の文化イベントへの関心）に、日本の伝統的な火の文化である手筒花火と星空観望会を掛け合わせることで、地域独自の魅力的な文化体験を創出し、発信することができるのではないかと考え企画したもの。

2 内容

鹿沼公園野球場にて、「手筒花火」職人によるパフォーマンスの披露。また、望遠鏡を設置して星空の専門家による講話と星の観望。

総事業費：550,000円

うち交付金額：440,000円

3 成果と今後の展望

手筒花火開始のカウントダウンではロケット発射とコラボレーションを行うなど大野北地区の特色である宇宙や銀河を身近に感じてもらえたと思う。観望会では講話を聞きくことで子どもたちが宇宙に大変興味をもっていることが感じられた。今後も、事業を継続することで、宇宙に対して夢や希望を膨らます機会としていきたい。



手筒花火や星空観望の様子

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
8月2日	鹿沼公園 野球場	約1,000人	手筒花火パフォーマンス披露。望遠鏡を設置して星空の専門家による講話と星の観望。

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名： 宇宙を感じる地域づくり事業					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	日本古来の伝統文化である手筒花火と、最先端の宇宙開発技術であるロケットを結びつけることで、大野北地区の特色である宇宙や銀河を身近に感じてもらい、地域の特色に興味を持つきっかけづくりとなった。地域への愛着を深めるために寄与する本事業は、参加者同士の交流を図れるなど、地域のニーズにマッチした事業であり、解決すべき地域課題は明確であった。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	開催に向けた出演者との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	大野北銀河まつりと同時開催により事前の啓発や大野北地区の特色である銀河カラーを前面に出すことで他の団体や地域住民への波及効果が生まれたと思う。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	地域住民が地域の特色に興味を持つきっかけとなり、地域への愛着を醸成できた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	地域に存在するJAXAという世界的機関と、伝統文化である手筒花火及び星空観望会を組み合わせたイベントを体験することで、大野北地区の特色でもある宇宙や銀河を身近に感じてもらい住民の地域への誇りや愛着を育むことができた。地域愛の醸成を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」に沿った内容であった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） 総合評価の基準 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を達して×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合 B		

大野北地区「障がいをもつ人たちと地域を結ぶ 「交流音楽発表会」 & 「アートワークショップ」」

1年目

おぐちミュージックセラピー

1 背景と目的

障がい児者が地域で生き生きと暮らすためには、家族を含めた生活環境への支援が不可欠である。特に重症心身障害児者・医療的ケア児・重度重複障害児者は外出の機会が限られていることもあり、地域との接点は極めて希薄であると言える。自由に行ける場や交流の場が求められていることから、障がいがある人も、ない人も、誰もが参加でき、音楽とアートを通して、ともに遊び・楽しみ・育ち合える、インクルーシブな場の提供が必要と考え企画したものの。

2 内容

青少年学習センターホールにて参加型の交流音楽発表会と、誰もが参加できるアートワークショップの開催。

総事業費：104,434円

うち交付金額：104,000円

3 成果と今後の展望

音楽とアートを通して、多くの親子が安らぎの時間を感じながらコミュニケーションを取るなど特別な時間になったと思う。子の楽しむ姿に成長を感じながら喜びを分かち合う親子の様子が見られ、多くの方から「参加して良かった」「大満足」との声をいただいた。また、参加者同士の交流も見受けられ、繋がり の 起 点 が 出 来 た た め、今後も音楽とアートを通してインクルーシブな場を提供していきたい。



音楽発表会とワークショップの様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
11月24日	青少年学習センター	約80人	参加型の交流音楽発表会と誰もが参加できるアートワークショップを開催。

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 障がいをもつ人たちと地域を結び
「交流音楽発表会」 & 「アートワークショップ」

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	障がい児者が地域で生き生きと暮らすためには、家族を含めた生活環境への支援が不可欠であり、特に重症心身障害児者・医療的ケア児・重度重複障害児者は外出の機会が限られていることから地域での居場所づくりや交流の場が必要である。このような音楽発表やアートを通じて交流が出来る本事業は地域のニーズにマッチした事業であり、孤立する不安や居場所づくり等、解決すべき地域課題は明確であった。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	開催に向けた演者との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	障がい児を支援をしている団体やご家族、学校関係者など多くの参加者が音楽とアートを通じてインクルーシブな場となり今後の活動の広がりや連携が期待できる。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	音楽とアートを通じて親子で芸術に興味を持つきっかけとなり、参加者同士の繋がりが子ども達の健全育成に寄与している。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	音楽やアートに触れることで自分の目や肌で感じてもらいながら親子や参加者同士の交流促進を深め、子育ての健全育成の向上を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」（様々な主体同士が連携・協働し強みを生かすための取組の推進）に沿った内容であった。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

大野北地区「～楽しくつながろう！～ おおのきた防災フェスタ」

1年目

おおのきた防災フェスタ実行委員会

1 背景と目的

大野北地区では、例年、地区自治会連合会自主防災隊や単位自治会による防災訓練を実施しており、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という自主防災意識の下、防災知識や訓練方法など実施しているが対象は自治会員に限定されているため、誰もが防災に興味を持てるような体験型の「防災フェスタ」を開催することで、防災意識の向上と住民同士の連携・協力のきっかけづくり、地域防災の新たな担い手の確保に繋がりたいとの機運が高まり、実行委員会を組織して企画したもの。

2 内容

誰もが参加できる防災の体験型イベントとして救命体験、消火体験、煙体験、起震車体験、MR体験、防災豆知識、ワークショップ、防災グッズ展示スタンプラリーを実施。

総事業費：374,273円

うち交付金額：374,000円

3 成果と今後の展望

当日は約800人の来場者があり、子どもから大人までが参加できるイベントとして、楽しみながら防災の大切さを伝えることができた。防災イベントを通じて「自助」の意識向上にも繋がり、地域防災にとって大きな効果があったと考える。また、地域団体がお互いに協力しながら、実施したことで、住民同士の連携を強化や「共助」の促進にも繋がると考えられるため、引き続き実施していきたい。



消火訓練と起震車体験の様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
2月21日	大野北公民館	約800人	誰もが参加できる防災の体験型イベントとして救命体験、消火体験、煙体験、起震車体験、MR体験、防災豆知識、ワークショップ、防災グッズ展示スタンプラリーを実施。

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： ～楽しくつながろう！～
おおのきた防災フェスタ

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	地域住民が防災に興味を持てるような体験型の「防災フェスタ」を開催することで、防災意識の向上と住民同士の連携・協力のきっかけづくりに寄与する本事業は、参加者同士の交流を図れるなど、地域のニーズにマッチした事業であり、解決すべき地域課題は明確であった。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	開催に向けた出演者との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	近隣の大学や小学校を含め地域で活動している多くの団体で実行委員会を組織し、新たな他の団体との繋がりが地域住民への波及効果が生まれたと思う。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	防災をテーマとした誰もが参加できる体験型のイベントを開催することにより、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という自主防災意識の下、助け合える地域住民どうしのつながりをつくる契機とし、安全安心なまちづくりをすすめることが出来たと思う。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	大野北地区の特色でも大学や近隣小学校とも連携してもらい地域住民の防災意識の向上といざというときに助け合える地域住民どうしのつながりをつくる契機とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」に沿った内容であった。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

田名地区「田名地区三菱重工相模原ダイナボアーズ応援事業」

3年目

田名地区ダイナボアーズサポーターズ

1 背景と目的

田名地区では、自治会加入率の低下によって、老人会や社会福祉協議会等の地域活動団体の活動にも影響が生じてしまうことを懸念し、まちづくり会議においても「自治会加入率の低下をまち全体の課題」として取り上げているところである。

そこで、田名地区内に拠点がある三菱重工相模原ダイナボアーズを田名地区が一体となって応援することで、地域コミュニティの強化と地域に対する誇り及び愛着の醸成につなげ、自治会加入の促進と退会防止に資することを目的とする。

2 内容

- ・啓発事業（自治会館や公共施設、協力店舗などにのぼり旗や横断幕を掲示。
地区自治会連合会HP（たななび）や地域情報紙、SNSでの情報発信。）
- ・交流事業（地区内福祉施設との連携事業として、福祉施設主催のクリスマス会への参加や福祉作業所通所者とスタジアムバックスタンドの清掃を実施。ホームゲーム観戦バスツアーの実施。地域活動交流として、選手やスタッフを地区自治会連合会や単位自治会等の行事に派遣してもらい、地域住民と交流を図る。）

総事業費：1,316,384円

うち交付金額：950,000円

3 成果と今後の展望

三菱重工相模原ダイナボアーズとの「地域共創パートナーシップ契約」を更新し、引き続き田名地区自治会連合会の取組をPRすることができた。

自治会からの退会者や未加入者から加入メリットを問われることも多い状況で、地域資源である三菱重工相模原ダイナボアーズとの連携事業を継続したことは自治会取組のPRとなった。

地域住民の中でラグビーを通じた共通の話題が生まれ、顔見知りが増えりするなどコミュニティの輪が広がっている。今後は、より自立した企画の立案や事業の実施・継続が望まれる。



地区内福祉施設クリスマス会での交流(12月6日)の様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
令和7年 10月 ～令和8年 3月			・打合せ（地区内福祉施設が主催するイベントに協力し、選手やスタッフとの交流を通じた応援活動の企画・立案等） ・のぼり旗・応援横断幕等の掲示 （自治会館や公共施設、協力店舗など）
10月1日			地域共創パートナーシップ契約更新 （期間：令和7年10月1日～令和8年9月30日）
12月6日			地区内福祉施設主催のクリスマス会に参加
12月21日	相模原ギオン スタジアム	60人	ダイナボアーズ応援バスツアー第1弾
令和8年 1月24日	相模原ギオン スタジアム	47人	ダイナボアーズ応援バスツアー第2弾 市内福祉作業所通所者と試合前にスタジアムバックスタンド観客席の清掃（約1,400席）
2月14日	相模原ギオン スタジアム	33人	ダイナボアーズ応援バスツアー第3弾

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 田名地区三菱重工相模原ダイナボアーズ
応援事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	地域課題でもある「自治会加入率の低下」に対して、地域資源とも呼べる「三菱重工相模原ダイナボアーズの応援」を解決策に捉えており、事業の目的とその内容は明確である。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	事業実施にあたって、各会員の役割を分担して行う体制が整っていた。 また、応援バスツアー参加者へ本事業の取組に対する呼び掛けを行うなどして賛同者を増やす努力を行っていた。 今後は、本事業効果を踏まえながら、地域活性化事業交付金に頼らない企画の立案や事業の実施・継続が望まれる。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	地区内福祉施設との連携事業によって、更に地区内におけるラグビーを通じたコミュニティの輪を広げることができた。 また、引き続き取組に対する周知を行い、応援バスツアーへの参加、ポスター掲示等による地域の一体感を醸成することが出来た。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	数値目標はないが、三菱重工相模原ダイナボアーズの話題をきっかけに、地域住民の間で交流が生まれていることを確認した。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	区別基本計画の取組みの方向Ⅳ－3「誰もが桜やJAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます」の取組に該当する事業で、地域資源である三菱重工相模原ダイナボアーズを生かして、地域住民の交流の機会が創出された。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

上溝地区「上溝さくら公園イルミネーション事業」

3年目

上咲実行委員会

1 背景と目的

上溝さくら公園は、園内に39種の桜が植栽され、秋から春にかけて様々な桜の開花を長く楽しむことができる。その魅力を多くの地域住民に知ってもらう機会として、これまで、春には「さくらまつり」、秋には「秋祭り」を開催。冬季においても、地域住民のコミュニケーションの機会となるような新たな魅力づくり事業を進める。

2 内容

- 上溝高等学校、上溝南高等学校に加え、今年度より光明学園相模原高等学校も参画。
- 12月13日開催の点灯式には、公園内に模擬店が多数出店し、地域関係団体と地元高校生が協力し運営。そのほか、上溝高等学校ダンス部のパフォーマンスや上溝南高等学校吹奏楽部の演奏、光明学園相模原高等学校和太鼓部の演奏もあり、地域の若い世代がイベントを盛り上げた。
- イルミネーションは、12月13日から翌年1月10日までの期間、毎日点灯実施。

総事業費：929,345円

うち交付金額：793,000円

3 成果と今後の展望

- 今年度は、本事業に隣の地区の高校がさらにもう1校協力してくれることとなり、同じ地域で活動するもの同士の新たな繋がりが生まれ、地域コミュニティの輪が広がった。
- 今年も世代を問わず、地域住民を中心とした多くの方々が来場され、イルミネーションを楽しんでもらうことができた。この事業がこの先も地域の手で継続していけるように、今年の一部イルミネーションを購入。今後も地域で協力し合いながら事業を発展させていきたい。
- 上溝さくら公園内だけでなく、商店街の協力を得て、上溝商店街あたりまでイルミネーション装飾の範囲を拡大したい。



上溝さくら公園 イルミネーション

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
10月9日	8人	会議①（事業内容検討）
10月23日	6人	会議②（事業内容検討）
11月13日	6人	会議③（事業内容検討）
12月13日	約500人	上溝イルミネーションオープニングとして、点灯式イベント開催
～1月10日	—	点灯式から1月10日（土）までの約1ヶ月の期間における17時～20時まで毎日点灯

地域活性化事業交付金評価シート

事業名： 上溝さくら公園イルミネーション事業

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。 2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。 3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○ ○ ○	3度目の開催ながら、イルミネーション事業は地域に認知され始めており、点灯式には今年度も多くの来場者があった。地元の高校との連携・交流が一層活発となっており、高く評価できる。
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。 2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○ ○	設定した事業目的に合致した事業実施が適切になされており、支出についても過剰な点は見られなかった。
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。 2 事業が主体的に実施されたか。 3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○ ○ ○	事業の企画や周知、運営に至るまで、会員を中心に主体的に事業が実施されており、自立に向けて今後の展望も計画している様子がうかがえた。
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。 2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○ ○	地域の高校生や協力団体と密に連携して準備や運営を行ったことで、地域の連携する力の向上につながった。
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	事業を実施したことで、上溝地域のシビックプライドや、自治会加入に向けた機運を醸成することができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。 2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。 3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○ ○ ○	本事業は、重点的な取り組みである「商業振興によるにぎわいづくり」、「文化が薫り、誇りを持てるまちづくり」に該当する事業と言える。

〈各視点の評価〉

- ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
- ：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
- ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

- A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
- B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
- C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

令和 7 年度実施

中央区 地域活性化事業交付金 事業まとめ誌

発 行 令和 8 年 7 月

編 集

相模原市 中央区役所

相模原市中央区中央 2 丁目 1 1 番 1 5 号（市役所本館 1 階）

お問い合わせ先

中央 6 地区まちづくりセンター

電話 042-707-7049 F A X 042-757-2941